

サルトリイバラ科 シオテ属

サルトリイバラ (猿捕茨)

Smilax china L.

自生環境

林縁、野原 など

原産地

日本在来

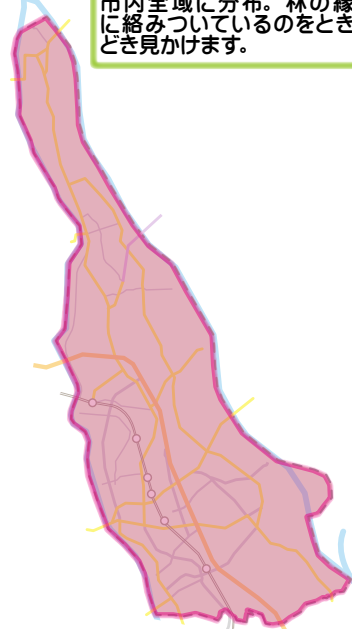
生育を脅かす要因



市内全域で普通に見られますが、雑木林の伐採や開発は、重大な脅威となります。またアレチウリなど外来のつる草が林の縁ではびこると、生育場所が奪われてしまいます。

市内の分布状況

市内全域に分布。林の縁に絡みついているのをときどき見かけます。



特徴

- ☆ 林の縁などで、草木に絡みつくようにして育つつる性の落葉樹です。鋭い刺が多く複雑に絡み合うその姿は、木登り上手の猿でさえも引っかかって捕らえられてしまうだろう…名前はその連想から来ています。カカラ、ガンダチイバラなど、サルトリイバラのほかにも多数の地域名を持っています。
- ☆ 雌雄別株ですが、いずれも春の芽吹きとともに、小さな黄緑色の花を咲かせます。雌株は秋になると果実が赤く熟し、これは生食できるほか、果実酒にもなります。
- ☆ 葉は丸っこい形で大きく、西日本では古くから餅やだんごなどを包むのに使われてきました。そのためマンジュウシバなる呼び名も存在します。乾燥させた葉はお茶の代用として使えるほか、若い葉は山菜として食用になります。

山帰来とは？

中国には、日本のサルトリイバラに近い仲間の *Smilax glabra* (ケナシサルトリイバラ) という種類が自生しています。この根を山帰来 (さんきらい) と言い、生薬として利用されています。山帰来は、文字通り「山から帰って来た」という意味。由来には諸説ありますが代表的なものとして、山で病気になる人が、この根で元気になって帰って来たというのがあります。

雄株



雄株、雌株ともに春の芽吹きとともに薄い黄緑色の花を咲かせる

雌株



小さな果実が数個ずつ丸く集まる



葉は丸くて直径3~12cm

葉はかたくて頑丈で、表面ににぶい光沢がある

冬芽



冬芽は葉柄に包まれる

葉柄
ようへい

枝がジグザグになる



葉のつけ根に巻きひげがある

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA>

